

通信傍受の現行と 新システムについて

ソフトバンクモバイル株式会社

平成25年7月24日

1. 現行の通信傍受について

1-1. 現行における立会い

1-2. 現行における運用環境

2. 新システムについて

2-1. 新システム導入による変更

3. 今回の通信傍受の見直しについて

3-1. 見直しによる負担の回避

3-2. 実施時の登録確認

3-3. 現行制度での依頼増加

1. 現行の通信傍受について

1-1. 現行における立会い

課題

要員確保

通常業務への支障

残業増加

その他、通信傍受に係るバックアップ体制の維持

1-2. 現行における環境整備

課題

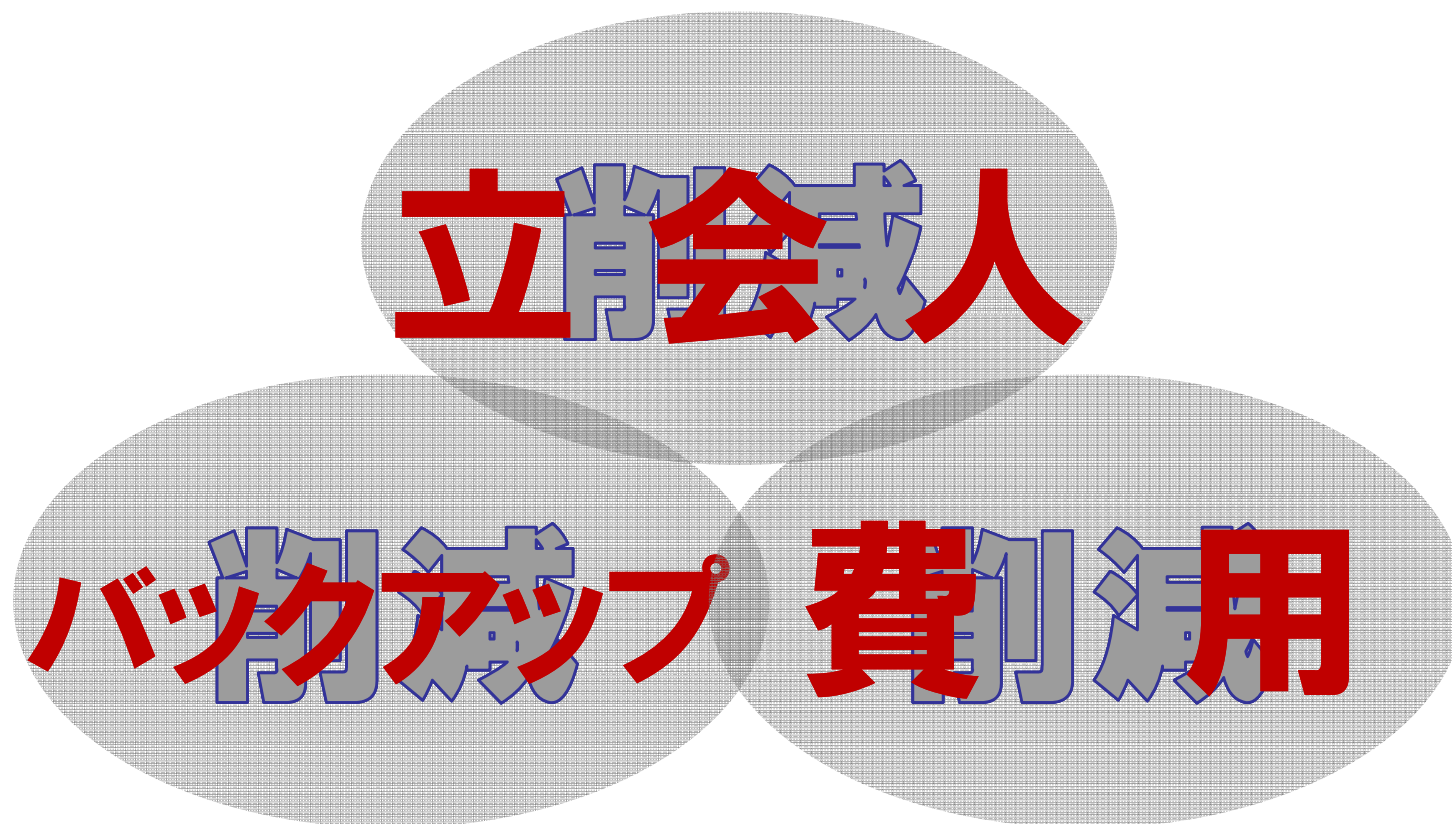
システム構築・維持

実施場所の確保

2. 新システムについて

2-1. 新システム導入における変更内容

傍受実施の課題が改善



※システムの内容については、仕様、構成などが未確定のため、現状での判断は困難。
なお接続点が、通信事業者側か捜査機関側かにより、負担の影響度が変わります。

3. 今回の通信傍受の見直しについて

3-1. 見直しによる新たな負担の回避

- 傍受実施場所までの伝送路費用負担
- 傍受実施件数増加に伴う、オペレーションの負担

3-2. 実施時の登録確認

- 対象電話番号をシステムに登録する際、捜査機関側による確認

3-3. 現行制度での依頼

- 現行制度では、これ以上の依頼件数増加は、対応が困難

上記に関して、新たな方策の検討を要望致します。

以上